

鳥取校区まちづくり計画

「住み続けたいふるさと鳥取・木橋・和田野」

いやさか鳥取校区地域づくり協議会

「はじめに」

国内において、紛争や地球温暖化など世界的な変化の影響に加え、少子高齢化、製造業の衰退、福祉需要の高まりによる国民及び国家経済の負担増などの問題が生じ、対応が求められています。

鳥取校区においても、若年人口の流出による少子高齢化は、空き家問題、農業をはじめとした各産業の後継者問題、高齢独居世帯の増加による支援問題など多くの課題の発生原因となり、集落機能の維持に大きな影響を与えています。このような情勢の下、鳥取、木橋、和田野で暮らし続けるためにはどうしたら良いか、区役員関係者だけでなく、区民一人ひとりに対応が問われます。いやさか鳥取校区地域づくり協議会の運営を進めていくためにも5年、10年先を見つめ、計画的に取り組む必要があり本計画を策定し「住み続けたいふるさと鳥取、木橋、和田野」を目指します。

この計画の期間は10年間とし、5年ごとに見直すこととします。また、本計画と整合性をとる必要が生じた場合など、必要に応じて随時見直しを行います。

令和6年9月吉日

1. 地域の概要

鳥取校区は、旧鳥取小学校区の鳥取・木橋・和田野の3区で構成しています。

この地域は、急傾斜地を背負った地域であり、すぐ横には二級河川である竹野川が流れています。山と河川に挟まれている3集落です。

織物産業や稲作農業を生活の基盤として発展してきた地域であるが、過疎化に加え少子高齢化や織物産業の衰退、休耕田の増加など地域の活性化が課題となってきました。その中で農業については国営農地の事業に昭和63年より取り組み、経営基盤に資する目的で実施し平成14年に完了しました。

各区に区事務所もあり、午前中は区長、事務員が常勤し各区の運営を行っています。

(1) 各区の行事、団体・組織

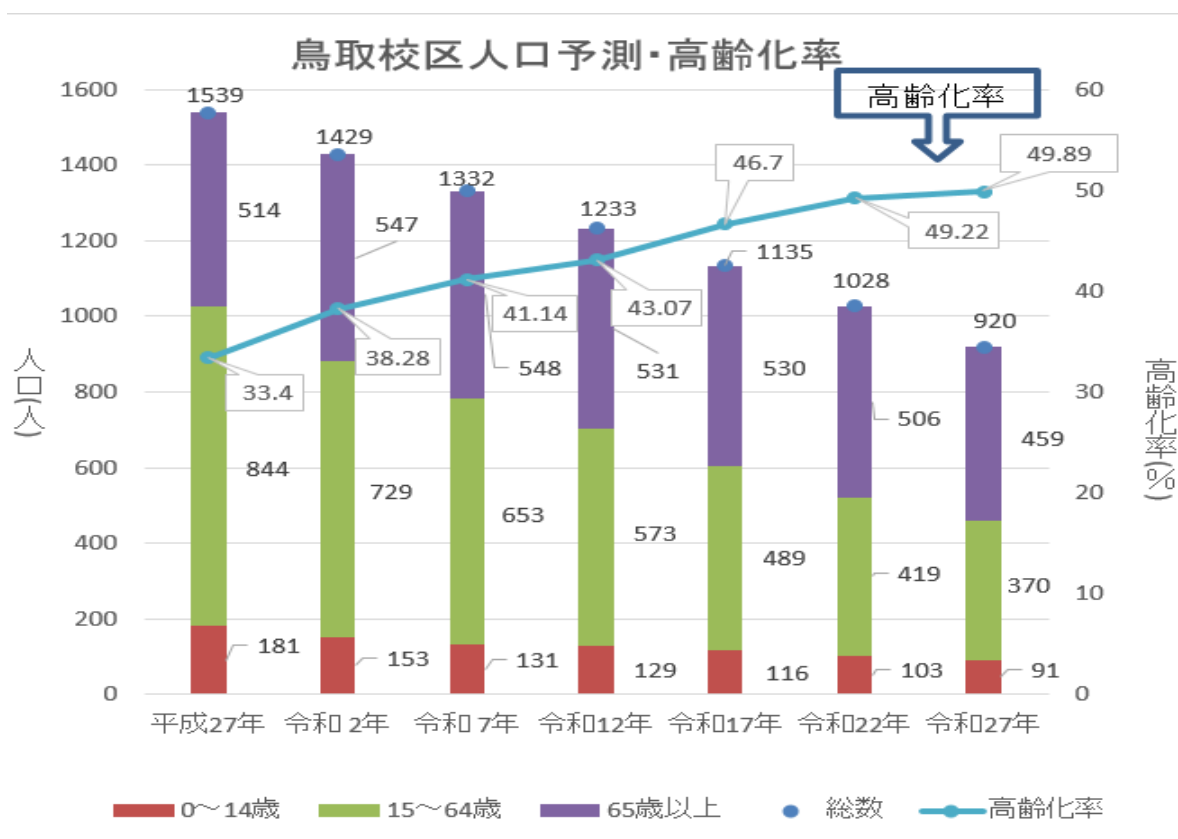
項 目	鳥取区	木橋区	和田野区
文化的行事	扇祈禱 あしぎぬ顕彰祭 びしゃもん祭り 愛宕さん祭り 地藏盆 秋祭り 長命寺「大根炊き」	節分祈禱 ろばた懇談会 愛宕神社火祭り 地藏盆 秋祭り	愛宕神社祭り 薬師堂祭り 地藏盆 秋祭り
自治会行事	総会 グラウンドゴルフ大会 草刈り（竹野川と堤防） 防災訓練 敬老会 空き缶拾い	総会 草刈り（農道、国営） グラウンドゴルフ大会 納涼祭 防災訓練 敬老会	総会 草刈り（竹野川・国営） グラウンドゴルフ大会 納涼祭 防災訓練 敬老会（長寿を祝う会）
団体・組織	区役員 消防団 自主防災会 福祉委員 老人クラブ 壮健会 PTA 鳥取村おこしの会 子ども会 農事組合 国営管理組合	区役員 消防団 自主防災会 福祉委員 婦人会 壮健会 PTA 子ども会 農事組合 国営管理組合	区役員 消防団 自主防災会 福祉委員 女性の会 壮健会 子ども会 和田野手芸グループ 農事組合 営農 国営管理組合

(2) 人口推移

平成 27 年の国勢調査をもとに、国土交通省国土技術政策総合研究所の資料を活用した予想データです。平成 27 年（2015 年）を 100%とし 5 年ごとの地区の人口を推計したものです。

30 年後の 2045 年には、鳥取校区で約 40%の人口減少が予想されています。
また、約半数の方が高齢者と見込まれています。

		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
鳥取区	人口(計)	464	432	406	378	345	314	279
		100%	93.1%	87.5%	81.5%	74.4%	67.7%	60.1%
木橋区	人口(計)	335	305	281	261	243	222	202
		100%	91.0%	83.9%	77.9%	72.5%	66.3%	60.3%
和田野区	人口(計)	740	692	645	594	547	492	439
		100%	93.5%	87.2%	80.3%	73.9%	66.5%	59.3%
鳥取校区計	人口(計)	1539	1429	1332	1233	1135	1028	920
		100%	92.85%	86.55%	80.12%	73.75%	66.80%	59.78%
弥栄町	人口(計)	5,058	4,601	4,195	3,830	3,482	3,139	2,806
		100%	91.0%	82.9%	75.7%	68.8%	62.1%	55.5%



2. 鳥取、木橋、和田野の概要・特長

鳥取区

区事務所 京都府京丹後市弥栄町鳥取 2120 番地

世帯数 189 人口 419 人

隣組数 12 (京丹後市住基台帳 R6.3)



(1) 歴史

① 遠所遺跡

古墳時代後期から平安時代にかけての複合遺跡。奈良時代における製鉄から精錬・加工までの一貫した生産工場があったことがわかる古代遺跡。

② ニゴレ古墳

弥栄町から網野町へ抜ける府道岩滝線沿いの標高 40 m 程の低丘陵に位置する古墳。

③ ゲンギョウの山古墳群

丘陵の尾根上に築かれた 10 基以上の古墳からなる。

④ あしぎぬの碑

奈良正倉院に天平 11 年 (739 年)「丹後の国鳥取郷」と記された絁「あしぎぬ」一反が保存されており、「あしぎぬ」は古代織物の一つで絹織物の元祖とも言われていることから、昭和 43 年当地に顕彰碑が建立されました。

平成 29 年に日本遺産『300 年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊』の構成文化財として認定された。

(2) 神社仏閣

① 壽宝山長命寺 11 月下旬に大根炊きが催される

② 吉田神社 平成 30 年に京都府暫定登録文化財に認定された。 10 月に秋祭り大祭が行われる。

③ 天武神社 通称「びしゃもんさん」として親しまれている。 7 月 2 日「毘沙門天祭り」が催され花火も打ち上げられ、賑わいを呈している。

④ 愛宕神社 祭神は火産霊神(ほむすび=火の神様) 7 月下旬に愛宕さん祭礼が行われる。

(3) 区の特長

当区は豊かな歴史と伝統を誇る多くの行事が開催される地域です。これらの行事やグラウンドゴルフ大会等のスポーツを通じて、区民はお互いに繋がりを持ち、また隣組内での飲食を通じて交流を深めることも好まれています。

35 年ほど前に結成された鳥取村おこしの会は会員同士の交流、区内の活性化に一役買っています。最近は女性も加わるようになり、新しい視点で活躍が期待される所です。さらに地域の宝である子供たちにも鳥取区の良さや魅力が受け継がれており、将来的に鳥取へ戻って住みたい、他の地区に住んでいても鳥取を応援したいと思う傾向があります。

木橋区

区事務所 京都府京丹後市弥栄町木橋 925 番地

世帯数 122 人口 303 人

隣組数 8 (京丹後市住基台帳 R6.3)



(1) 歴史

遠所遺跡、ニゴレ古墳、オテジ遺跡、坂野丘遺跡

(2) 神社、仏閣

泉流山太慶寺

日吉神社、愛宕神社

(3) 区の特長

①ろばた懇談会

昭和 43 年より、明るい、暮らし良い地域づくりのため公民館活動の一環として年 1 回ろばた懇談会が引き継がれ実施しています。木橋区への要望、京丹後市への要望、京都府への要望、区民お互いが気を付けること等、意見を出し合い木橋区民の要望・意見として取りまとめを行い出された意見を各種団体へ要望を行い、改善することにより、さらなる住みよい木橋区の創出を図っています。

②愛唱歌

好景気であった織物業、基幹産業である農業から、木橋区の良い伝統・文化を現した歌詞を区民の方が作詞され、有識者の方に作曲していただき木橋区の愛唱歌として誕生しました。住みよい村づくりの姿が歌われており、新年木橋区互例会などで愛唱歌が歌われています。

③木橋区公民館報 年 5 回発行

(4) 区内組織活動

- ・公民館活動 三部制（生活広報部・文化部・体育部）
- ・婦人会 春は、区内道路のごみ拾い。秋は、コミュニティ広場、神社境内の草取り 区内美化活動に貢献している
- ・壮健会（45 歳以上）
盆前に墓道掃除、秋にはボーリング大会で親交を深めている。
- ・福祉委員 「さつき会」と称す
毎月 1 回サロンを開催し、区民のふれあい、融和を図っている。
- ・健康推進委員 毎週木曜日「のびのび体操」実施。区民の健康増進に貢献している。
- ・農地・水・環境資源保全隊
農道の修繕、草刈、間切りを行い農道の整備を行う。
カンナ畑の整備、生き物調査、ホタルの鑑賞会実施
区内の環境整備を行っている。
- ・子ども会 秋祭の子供屋台巡行、地藏盆、クリスマス会等を行う。

和田野区

区事務所 京都府京丹後市弥栄町和田野 558 番地

世帯数 309 人口 668 人

隣組数 17 (京丹後市住基台帳 R6.3)



(1) 歴史

大田南古墳群

大田南五号古墳から平成6年(1994年)に出土した青龍3年(235年)方格規矩四神鏡。邪馬台国の所在地をめぐる論争の重要な資料として、注目を集めました。

(2) 神社仏閣

① 長安山西方寺 往古は、中郡橋木村真言宗発貴山縁城寺の末庵阿弥陀堂。

承応3年(1654年)丹後国宮津町智源寺の末寺となり真言宗から曹洞宗にかわり、その後、寛文9年(1669年)現在地に建てられました。

② 春日神社 和田野の氏神様である春日神社は、昔は常枝保相森宮つねえだむらすぎもりみやと言われていましたが、1570年代頃から和田野春日神社と呼ばれるようになりました。祭礼は10月15日に行われ、神楽の舞などが奉納されます。

③ 須賀神社

春日神社の裏山の頂上に、天王さんの名で牛の神様として広く知られています。祭礼が終わると可愛らしく着飾ったお日輪持ちを先頭に、氏子が御幣さんを持ってのぼり奉納します。

④ 愛宕神社 毎年7月24日に祭事が行われています。

今は小学生や保育園児の「火の用心」の塗り絵を飾り、火災防止を祈願しています。

(3) 区の特長

追手門学院大学との大学連携の取組み

① 平成30年から参加型住民(地域ファン)づくり事業(京都府事業)に取り組んでいます。

目的は、和田野区と大学との連携事業に取り組むことで「学生から見た目線で地域づくり」を行うことを目的として大学と地域の連携事業を実施しています。

(学生からの意見)

- ・故郷教育について 大人になって地元に戻ってくる愛着心と帰省意識が必要である。
- ・起業教育について 将来地域で起業、生活することを想定し学生でも経営力や起業できるノウハウを学ぶことが大事である。
- ・食について 「食」を生かし若者が集まる居場所づくりが必要である。
- ・学生の意見を地域発展に繋げる取組み

子ども達への「故郷教育」や「食」をテーマに起業・事業への展開に向けた活動を行うことで、和田野の地域発展につながるのではないかと。

② 令和6年度には、隣組同士が相互に助け合える「災害に強いまちづくり」を目指しており、学生と協力し和田野区防災マップを作成し完成報告会を実施しました。

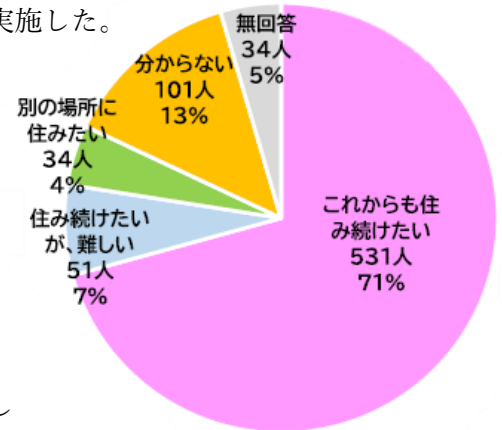
3. 校区の現状について

(1) 住民アンケート調査

令和2年に、弥栄町で中学生以上対象の住民アンケートを実施した。

鳥取校区の結果を検証 別紙参照

回答 751人 (回収率 70%)

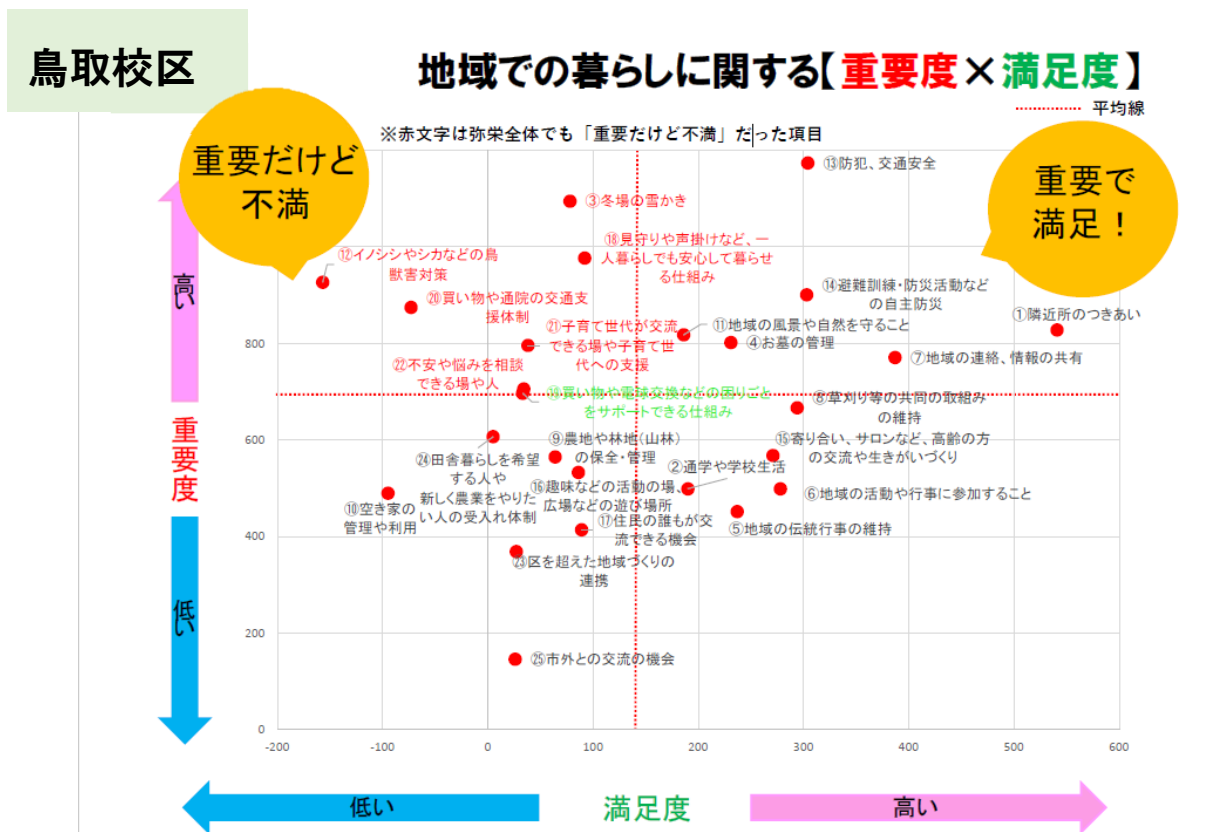


今住んでいる地域に住み続けたいですか

回答 住み続けたいと答えた人 71%

- ・住み続けたい理由は、自分が生まれ育った場所であり住みやすい。
- ・住み続けたいが、難しい理由は、高齢であり一人暮らしであったり、住みやすいが老後になると不便になるかもしれない。

地域での暮らしについての重要度と満足度



- ・暮らしに関しては、防犯、交通安全・冬場の雪かき・見守り等安心して暮らせる仕組み、買い物支援体制等が重要であるが満足度は低いようである。

鳥取校区	重要度	満足度(ワースト順)
1位	⑬防犯、交通安全	⑫イノシシやシカなどの鳥獣害対策
2位	③冬場の雪かき	⑩空き家の管理や利用
3位	⑩見守りや声掛けなど、一人暮らしでも安心して暮らせる仕組み	⑪買い物や通院の交通支援体制

(2) いやさか鳥取校区地域づくり協議会

人口減少や少子高齢化が進み校区の力が弱まり、地域課題が多様化し各区単独では解決できない課題が増えてきました。誰もがわかりやすい地域運営の仕組みをつくり、住みやすい地域を目指し、令和4年に「いやさか鳥取校区地域づくり協議会」を設立しました。

① 防災部会

避難所運営検討委員会の活動を引き継ぎ避難所運営マニュアルの更新をしている。防災訓練や防災マップ作成により、区民の防災意識を高める活動の推進をしている。

② 地域支援部会

農業問題の取組みとして、多面的機能支払交付金の事務広域化を進める。
公民館活動の事業を引き継ぎ交流事業を進める。
福祉委員、民生委員さん合同会議を年1回は開催し情報共有を行っている。

4. 校区の課題

(1) 防災について

災害時に避難経路で心配な場所もあり鳥取川改修工事、竹野川改修工事が進んでいるが、台風等の大雨により河川の氾濫が心配であり早期完成を願っている。校区で防災について取り組みを行い、意識を高めることが重要である。

(2) 農業について

後継者、担い手不足が大きな問題であり、農地の維持が難しい。
令和6年度から多面的機能事務の広域化を実施しているが、今後も連携強化が必要である。
国営農地の未耕作地の増加、施設の老朽化が問題である。

(3) 有害鳥獣対策について

シカ、イノシシが増えて作物等の被害が多発している。
捕獲をしても処分に困っている。

(4) 空き家問題

現在も管理されていない空き家があり、近隣に迷惑をかけている家もある。
今後、空き家は増えると予想され持ち主さんはしっかり管理をお願いしたい。
連絡の取れる関係も必要と思われる。
移住者を受け入れるために、空き家の情報提供できる状況が必要である。

地元の熱意が必要であり受け入れ体制の充実が求められる。

(5) 各区の区事務所、公民館の建物維持

各区に区事務所と公民館施設があるが、年々老朽化してくるので修繕が必要である。また備品等も整備する必要がある。

(6) 文化継承について

祭りを継承するための人手が不足している。
神社、仏閣の建物の維持管理も必要である。

(7) 福祉について

高齢化社会となり、高齢者を支援する人の負担が大きくなっている。
少子化が進み、子供の事業を継続する事が難しくなっている。

5. 地域の目指す姿

(1) 住みやすい環境をつくる。

道路河川の整備や交通安全に関する整備を進める。

(2) 各区でのコミュニティ活動、自治の取り組みをしっかりと行う。

従来から3区で協力して実施してきた交流活動（令和6年度まで実施している公民館活動）や防災の課題である避難所運営の取組みで「弥栄小学校避難所運営マニュアル」は、今後も見直しや確認・検証を引き続き行う。防災活動については、避難所運営だけでなく、災害に備え準備物や避難経路の確認等を普段から地域での取組みを進める。

(3) 人口減少で高齢化の予想はできるが子供たちが、地域に戻って来なくなる地域、移住を希望される地域、住まなくても地域と関わってもらえる魅力ある地域づくりを目指す。

ふるさと納税を活用し地域ファンを増やす工夫をする。

6. 今後の取り組み

(1) 交流事業について

各区でサロン活動、見守り活動を実施する。

校区対抗のスポーツ大会（ソフトボール、グラウンドゴルフ等）

バザー、軽トラ市、子どもの事業（小、中学生が楽しめる事業）を行う。

ふるさと納税を活用し地域ファンを増やす取組みをする。

(2) 防災について

避難所運営マニュアルの見直し継続に取り組む。

災害時の危険な場所、経路の確認の取組みを進める。

防災マップの作成と見直しの取組みを進める。

防災対策の充実が安心、安全なまちづくりにつながる取組みを進める。

(3) 農業について

多面的機能広域化の充実、発展の取組みを進める。

担い手不足解消に向けた取組みや農地の適切な管理の取組みを行う。

農業経営の安定に向けた法人化の取組みを進める。

国営農地の保全と維持管理の取組みを行う。

(4) 有害鳥獣対策について

農地の保全を図るため、鳥獣対策を進める。

(5) 空き家対策について

空き家の管理や移住促進計画を作成し移住者の受入れを進める。

空き家対策を進める。

(6) 各区の事務所、公民館の建物維持について

各区の行事、コミュニティの維持増進のため、区事務所、公民館の維持管理を行う。

(7) 文化継承について

人口減少により、祭りをを行うのも難しい状況になってきているため、方法や内容を変更して、人出不足を解消して継承する取組みを行う。

SNSにより地域の魅力を発信し関係人口を増やし、祭りやイベントに参加して文化継承を図る。

(8) 福祉について

より良いサロン活動と見守り活動の取組みにより福祉の増進を図る。

子どもを中心とした交流事業の取組みを進める。

(9) スケジュール

令和6年度	まちづくり計画作成、移住促進計画特区申請
令和7年度	まちづくり計画をもとに、住み続けたいふるさと鳥取・木橋・和田野となるよう計画的に取り組んで行く。
令和8年度以降	計画と整合性が取れないことが発生した場合は、随時見直しを行う。

【資料】

弥栄町 わたしたちのまちづくりに関するアンケート結果報告書

【参考文献】

「弥栄町誌」

「時を越えて」

「京丹後市の歴史」

「京丹後の伝承・方言」